

荒木高子展 - 心の深淵に迫る -

記念講演会

「荒木高子の人と芸術」

兵庫陶芸美術館館長 乾 由明

荒木高子は、1921年に兵庫県西宮市に生まれました。1979年に開催された第5回日本陶芸展に出品した「聖書シリーズ（砂の聖書、燃えつきた聖書、黄金の聖書）」は、最優秀作品賞・秩父宮賜杯を受賞しました。以後は、もろく崩れゆく聖書をテーマにして、自身の心の深淵にある様々な感情をやきもので表現し、日本国内のみならず、海外でも高い評価を受けました。

1990年には、当館に隣接した兵庫県三田市藍本にアトリエを開設。1995年の阪神淡路大震災で西宮市の自宅が全壊した後は、三田市のアトリエのそばに、アメリカ製のトレーラーハウスを設置し、そこに住みながら制作に打ち込みました。

当館館長の乾由明は、荒木高子と1988年に雑誌『季刊 みづゑ』誌上で対談をしました。その後も、荒木が亡くなる2004年まで、交流は続きました。今となっては所在がわからない荒木の貴重な作品のスライドや、とっておきのエピソードを交えながら、荒木高子の人柄とその芸術について語ります。



荒木高子
 Pocket Bible
 2000年
 個人蔵
 撮影：高嶋清俊



荒木高子
 プ린テッド・ボールズ
 1971年
 西宮市大谷記念美術館

記念講演会「荒木高子の人と芸術」

開催日	2012年1月28日（土）14：00～15：30
場所	当館研修棟1Fセミナー室
定員	110名（事前申込み、先着順）
聴講料	無料（ただし観覧券の半券が必要）
講師	兵庫陶芸美術館館長 乾 由明